

2013年9月2日

大学院英語化教員意見交換会

1. 趣旨

大学院授業英語化を推進していくに際し、授業実践の状況に関して教員間で情報・意見共有を行ない、今後の授業に活かす。

2. 進行役について

グローバル人材育成推進室

トンプソン 美恵子

mthomp0@kaiyodai.ac.jp

**専門：外国語(日本語)教育、協働学習、
教師教育**

担当：TOEIC統括 & 大学院英語化推進

3.英語化Q&A: 理論と実践

Q:授業の英語化に関する疑問・困難点を先生方へのインタビューから抽出

A:

理論:英語教授法、第二言語習得論、心理学などの分野で提唱・実証されたもの

実践:海洋大大学院での取組み
⇒情報提供をお願いします

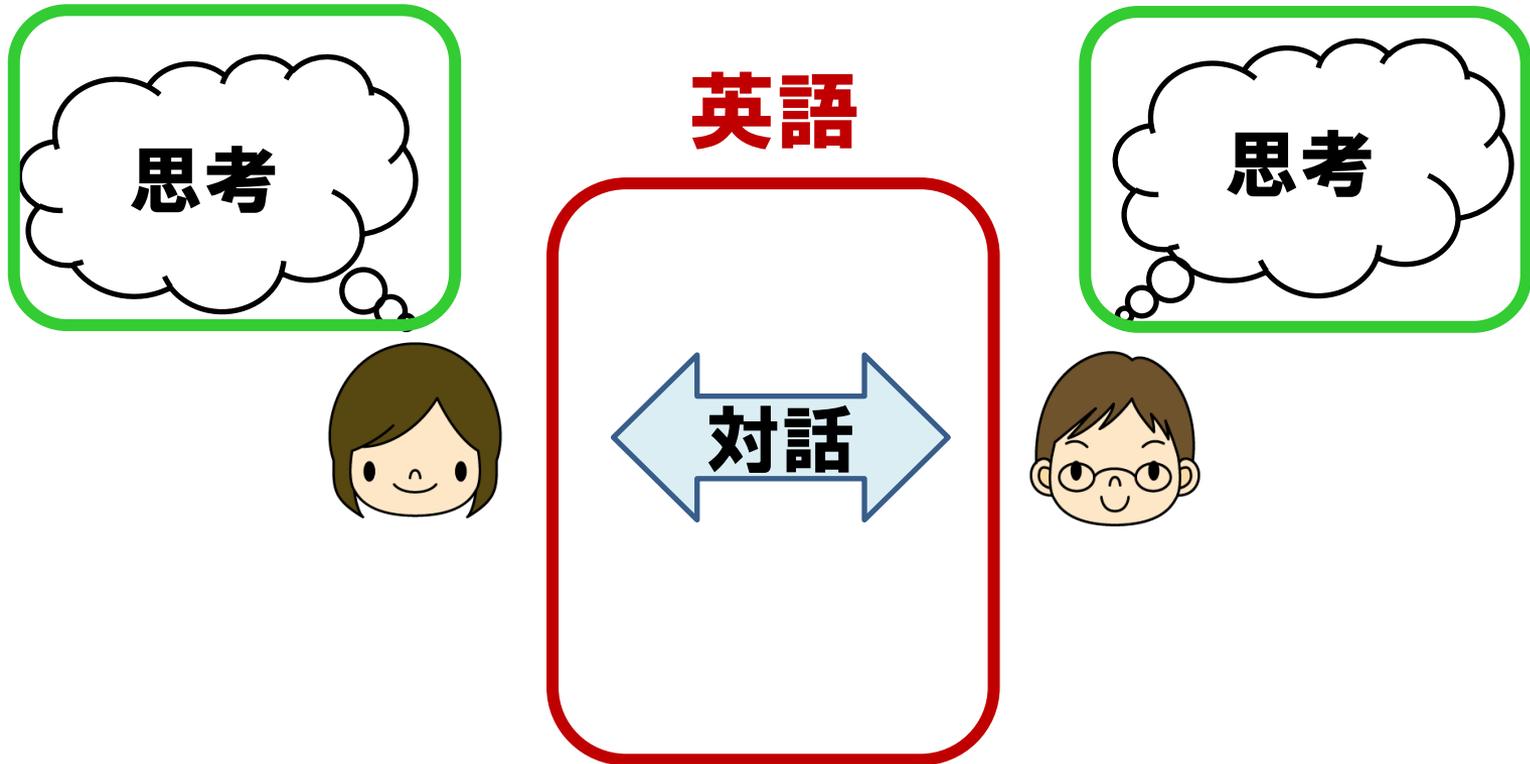


Q1

**英語で授業を行なうと、大学院での
専門性レベルが下がるのではないか？**

コミュニケーションツールとしての英語

言語の機能は・・・ **日本語**



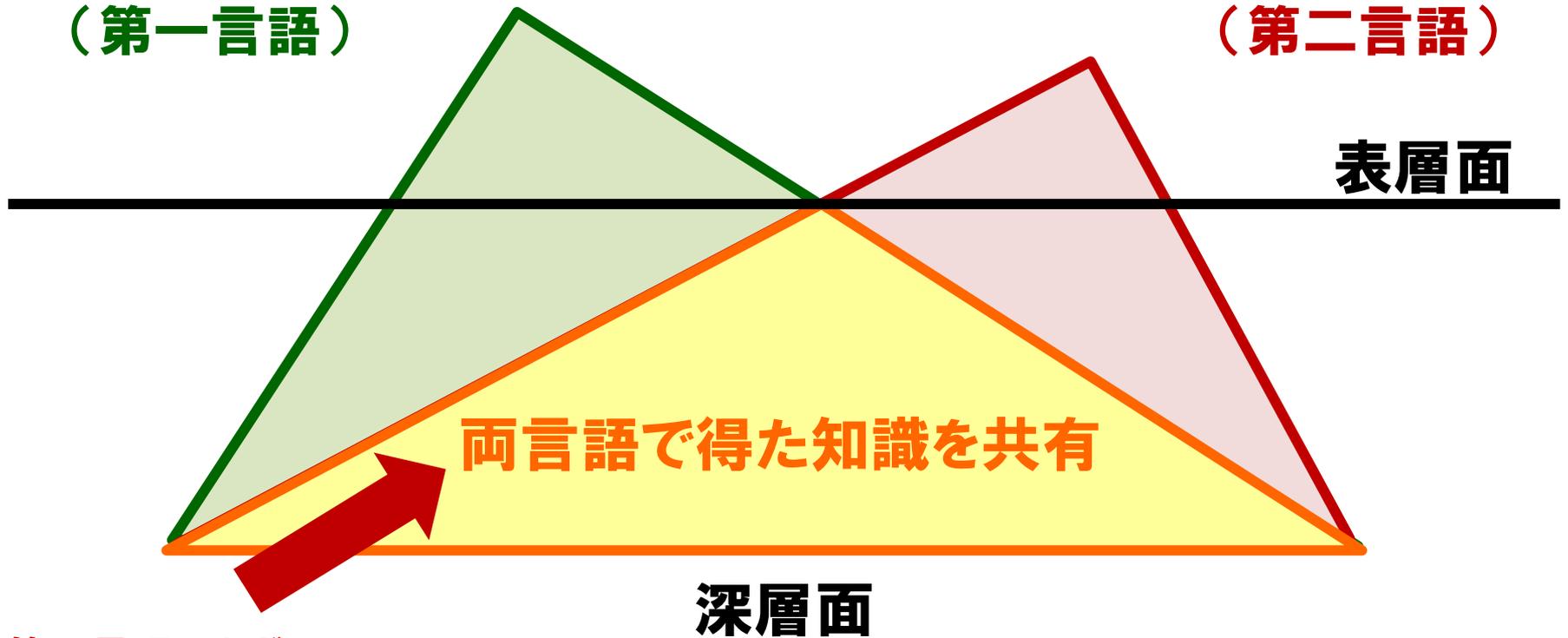
Q2

**英語の説明に対する学生の理解度は
どうだろうか？**

理解を支える第一言語

日本語
(第一言語)

英語
(第二言語)



第一言語でまず
基盤を固めること
が不可欠

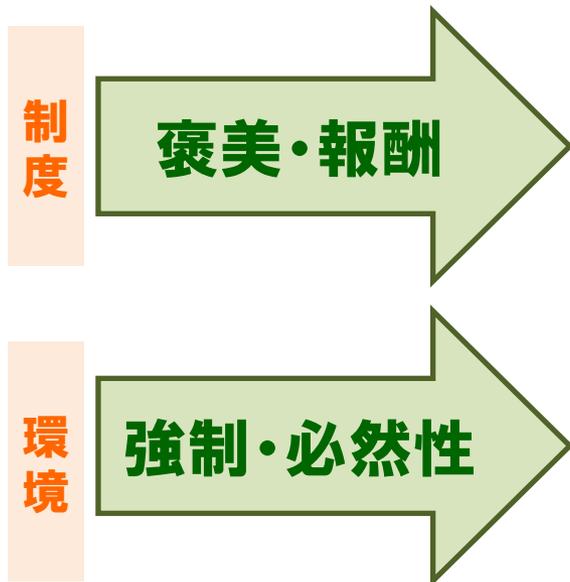
共有言語モデル(Cummins, 1996)

Q3

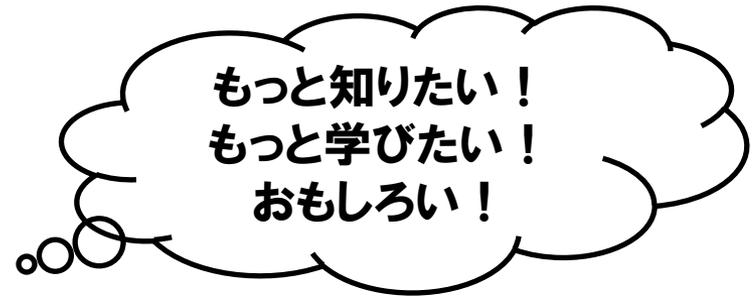
学生は受身的で、欧米と比較するとあまり勉強しない傾向にある。授業を英語化すると、多くの日本人学生が脱落するのではないか？

動機づけ理論

外発的動機づけ



内発的動機づけ



- 自己決定感
- 達成感
- 関係性

(参考) R.Ellis (2008) など

Q4

**英語での授業の方がよりロジカルに
物事を考えられるか？**

英語の論理的展開

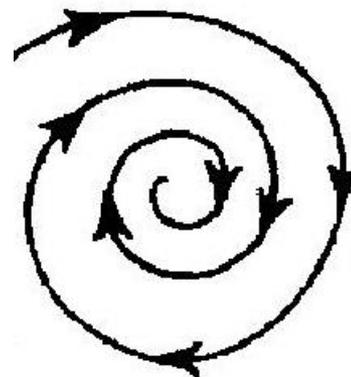
English



**主題から逸れず直線的；
重点先行**

**低コンテキスト文化；
共通理解を前提にしない**

Oriental



**主題の周辺を語る渦巻き型；
重点後行**

**高コンテキスト文化；
‘阿吽の呼吸’**

(参考) Kaplan (1966)、古田・石井・岡部・久米(1996)など

Q5

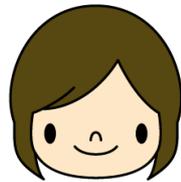
英語の授業は教師の負担が重いのではないか？

協働学習

～学生(仲間)同士の学びあい～

授業での**継続的**機会
(**プロセス重視**)

I think...



対等な仲間

共通の**目的**を
持った**対話**

I agree,
but...



対等な仲間



対話を促すファシリテーター
環境を作るコーディネーター

4.授業への提案①

協働学習

**目標：分析力、問題解決力、コミュニケーション力、
共感力などを育成**

方法：議論型、学習者参加型

授業の一部に取り入れられていることが多い？

論文講読

発表

学会発表準備、etc...

4.授業への提案②

知識・思考の
整理

Pre-task

- ・新概念について**日本語**で読ませる
- ・重要語彙を英語で提示する

知識・思考の
活性化

Task

- ・**既有概念は英語**で
- ・新概念は**日本語の補助**を入れる
- ・学生間の**対話**を促す

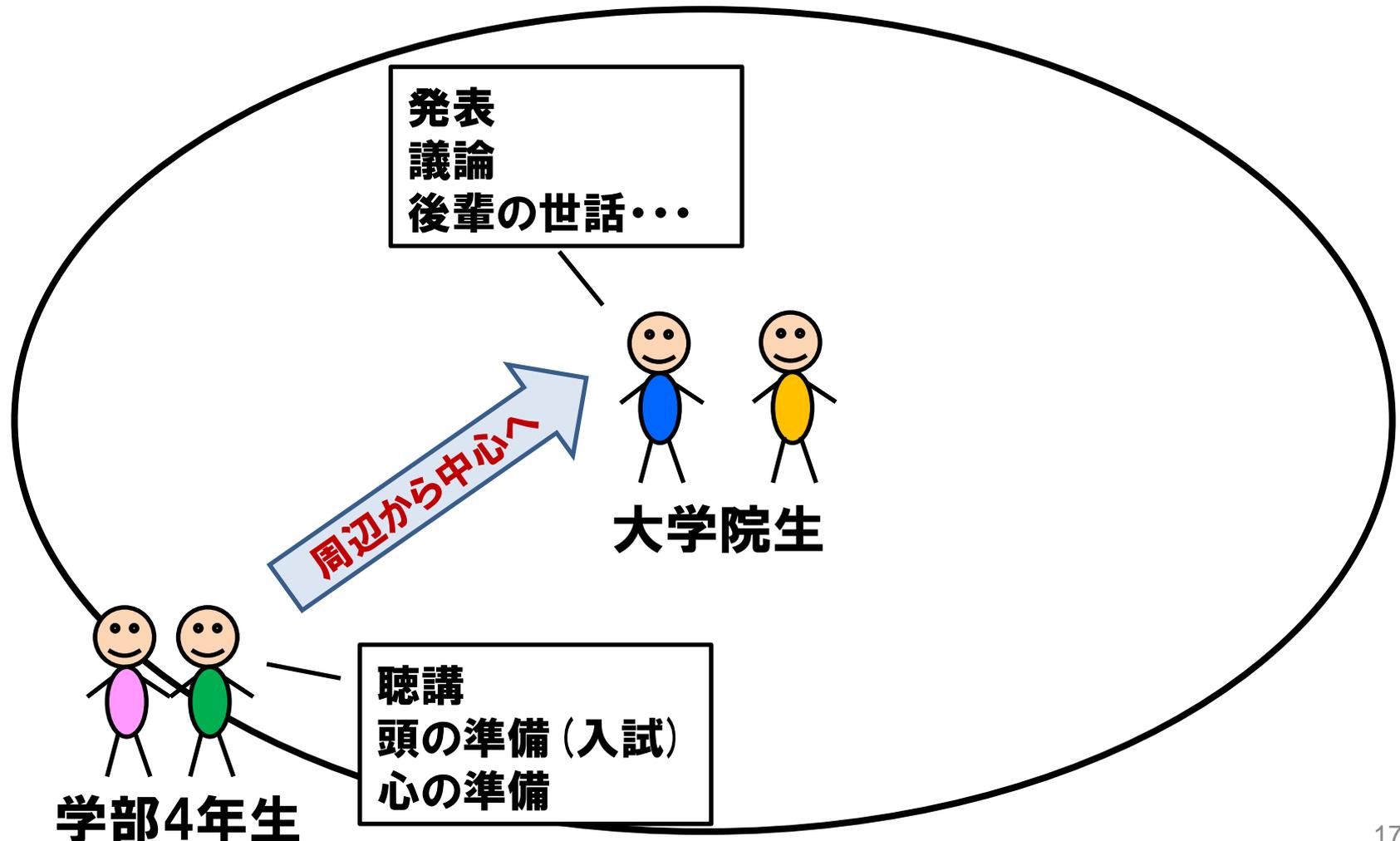
知識・思考の
統合と内在化

Post-task

- ・既有知識と新概念の理解統合を
日本語で促す
- ・ふり返しシートを書かせる

4. 授業への提案③

正統的周辺参加 (Legitimate Peripheral Participation)



5. 今後に向けて

- **十分な英語のinput & outputの機会を**
 - **トータルな環境作り**
**例)キャンパス、研究室、ゼミ、授業で英語を使用
することが必然**
 - **学部時代からのencouragement**
 - **性格・学習スタイル・性別などの個人的要因を配慮**

6. グローバル人材育成推進室 によるサポート

- 教材・資料の翻訳支援
- 教員間の情報共有の拡充
 - FD
 - グローバル人材育成推進室HP;インタビュー記事
http://www.kaiyodaiglobal.com/graduate_school/interview/
 - 英語学習アドバイザーによるカウンセリング
- 学生の英語基礎力向上
 - 学生に提供されているE-learningコンテンツ

主な対象	名称	内容
学部生	ネットアカデミー2(アルク)	TOEICなど実務英語
大学院生	スーパー英語(チエル)	TOEFLなど学術英語

参考文献

- 池田玲子・館岡洋子(2009)『ピア・ラーニング入門』ひつじ書房
- 岡崎敏雄・岡崎眸(2001)『日本語教育における学習の分析とデザイン:言語習得過程の視点から見た日本語教育』 凡人社
- 小柳かおる(2004)『日本語教師のための新しい言語習得概論』スリーエーネットワーク
- 佐々木嘉則(2010)『今さら訊けない…第二言語習得再入門』 凡人社
- トンプソン(平野)美恵子・鈴木寿子・小田珠生・佐藤真紀・張瑜珊・房賢嬉・半原芳子・三輪充子・岡崎眸(2012)『グローバル化社会をいかに生きるかを考えることばの教室の試み—受講生による認識に着目して』『2012年度日本語教育学会秋季大会予稿集』日本語教育学会
- 中島和子(2001)『バイリンガル教育の方法 増補改訂版』 アルク
- 古田 暁監修・石井 敏・岡部 朗一・久米 昭元(1996)『異文化コミュニケーション 改訂版』 有斐閣選書
- Cummins, J. (1996). *Negotiating Identities: Education for Empowerment in a Diverse Society*.
CA: California Association for Bilingual Education.
- Ellis, R. (2008). *The Study of Second Language Acquisition*. Oxford: Oxford University Press.
- Kaplan, R. (1966). Cultural thought patterns in intercultural education. *Language Learning* 16(1): 1-20.
- Peregoy, F. S., & Boyle, F. O. (1997). *Reading, Writing, and Teaching in ESL*. NY: Longman.
- Snow, A. M. & Brinton, M. D. (1997). *The Content-Based Classroom: Perspectives on*